

はんだ山の風

本院医療従事者に対し、
新型コロナウイルスワクチンの接種を行いました

新型コロナ感染症のワクチン接種の様子(松山病院長)▶



Contents

P.2 新任教授の紹介

内科学第一講座 教授 杉本 健
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 三澤 清
歯科口腔外科学講座 教授 増本 一真

P.5 浜松医大の医薬品開発と臨床研究の取り組み

臨床薬理学講座 教授/臨床研究センター センター長 乾 直輝

P.7 浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内

医療福祉支援センター地域連携室

P.8 腫瘍センターだより「地域がん診療連携拠点病院(高度型)の指定と腫瘍センターのご紹介」

腫瘍センター長 中村 和正

P.9 看護部「令和3年4月、看護部新規採用者78名を迎えました」

教育担当看護師長 山本 明美

P.10 お知らせ

P.10 交通のご案内



当院は日本医療機能
評価機構認定病院です。

発行/浜松医科大学医学部附属病院広報推進委員会
〒431-3192 浜松市東区半田山1丁目20番1号
TEL.053(435)2111(代表) FAX.053(435)2153(医事課)
HPアドレス/ <https://www.hama-med.ac.jp/>

過去の▶
はんだ山の風は
こちらから



新たな時代を迎える内科学第一講座と私の使命

内科学第一講座 教授 杉本 健



令和3年4月1日付で第一内科教授を拝命いたしました。私は湖西市（旧新居町）出身で本学の第14期生（1993年卒）です。入局後大学、市中病院で研修を行った後1999年に大学院にもどり、2003年から5年間の米国マサチューセッツ総合病院での留学を経て、2008年から本学で消化器内科学、主に炎症性腸疾患の研究と診療に取り組んできました。

入局する前は外科と内科との間で迷い、内科に決めてからは循環器内科と消化器内科で迷っていましたが、最終的に消化器内科を選択したのは、臨床としての幅の広さと奥の深さに惹かれたからです。すなわち消化器内科で扱う分野は、感染症、自己免疫性疾患、胃酸関連疾患、悪性腫瘍など、良性疾患から悪性疾患まで幅広く網羅されており、また悪性腫瘍の治療一つをとっても早期がんであれば内視鏡治療、手術不能進行がんに対しては放射線治療や抗がん剤治療など、一つの疾患に対してもそのステージによって多様な異なる治療手技を選択できるという奥深さがあります。内視鏡治療を使った治療や処置は、内科の中でも比較的外科に近い領域にあるということも大きな魅力として感じていました。私自身は大学院の時に恩師である花井洋行先生に勧められて、炎症性腸疾患の基礎研究を始めたのですが、炎症性腸疾患の研究や診療に携わっているうちにその奥深さにはまってしまい、現在に至るまでその道を進み続けています。現在の立場を築けたのも、留学先でもう一人の恩師である溝口充志先生（現久留米大学医学部免疫学講座主任教授）に巡り合い、溝口先生の下で大きな研究成果を残すことができたからだと思います。

さて第一内科の教授となったからには、消化器内科だけではなく、腎臓内科、脳神経内科にも広く目を配り、それぞれの科が大きく発展できるように一生懸命後押しをするのが私の使命と考えておりましたが、令和3年5月から脳神経内科が第一内科の診療部門における枠組みから外れて、今回新設される神経・難病センターとなります。この組織改編は、40年以上続く第一内科の歴史の中でも未曾有の大変革といえます。しかしながら、臨床面はともかくとして教育や研究面に関しては、これまでの枠組み・システムをある程度は踏襲する必要性があり、第一内科から脳神経内科だけをいきなり切り離すことはできません。また、現在第一内科に所属する脳神経内科の先生方は、今回の変革の後も同門の先生であることに変わりはありません。今後脳神経内科に入局してくる新しい先生方もこれまでの第一内科の同門の先生方とは現実的には強い関係で結ばれることになり、私自身は新たな脳神経内科グループと第一内科全体の調和を図り、それぞれが協力し合い、また、個別にも発展できるように舵取りを行っていきたいと考えています。

宮嶋裕明前教授は、第一内科教授のモットーとして「指導医が働きやすい環境整備をすること、若い人の邪魔をしないこと、そしてフェアな判断をすること」を掲げていましたが、私自身もこれを引き継ぎ、さらなる第一内科の発展に尽力していきたいと思います。

皆様からの温かなご支援とご協力をお願い申し上げます。

いまとこれからの耳鼻咽喉科・頭頸部外科

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 三澤 清



令和3(2021)年4月1日付で耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座教授を拝命いたしました三澤と申します。私は神奈川県平塚市で育ち、平成7(1995)年に浜松医科大学を第16期生として卒業後、本学耳鼻咽喉科講座に入局しました。本講座は、これまで野末道彦先生、星野知之先生、本学第1期生の峯田周幸先生によって主宰され、私は歴代教授の先生方にご指導いただき、臨床、教育、研究を行ってきました。

臨床に関しては、頭頸部がん診療と睡眠医療に取り組んできました。がん診療では、現在患者数が急増しているHPV関連中咽頭がんの治療成績改善のため、個別化治療導入に取り組んでいます。睡眠医療は社会的ニーズが増え、外来患者人数、入院検査数ともに年々増加しており、効率的なシステムの構築に取り組んできました。また、睡眠時無呼吸に対する扁桃手術に内視鏡を導入し、侵襲の少ないより安全な手術にも取り組んできました。耳鼻咽喉科は、小児から高齢者まで、難聴などの先天性疾患、慢性副鼻腔炎などの良性疾患、悪性腫瘍疾患など幅広く診療を行います。大学病院として地域のニーズに貢献できるよう、附属病院の診療体制を充実させ、基幹病院とのスムーズな連携を強化し、超高齢化社会、コロナ渦時代にあったシステムの構築に取り組んでいきたいと思っています。

教育に関しては、一般医学教育だけでなく静岡県唯一の医学部として、地域に貢献できる耳鼻咽喉科医の育成が当講座には求められています。幸い当教室には向上心あふれる若手医師が多く在籍

し、高いレベルを目指し日々精進しています。若い医師が、自分の目指す理念のもと臨床・研究に邁進できる環境を整えることが私の責務と考えています。優れた臨床医と独創性に富む研究者を養成するという建学の理念の実現に、努力していきたいと思っております。

私の研究歴ですが、ミシガン大学に留学し頭頸部がんの遺伝子修飾研究に取り組み、帰国後も継続してきました。最近では、リキッドバイオプシーという手法で、遺伝子修飾情報を低侵襲に得る方法の開発に取り組んでまいりました。血液から循環腫瘍DNAを回収し、リアルタイムに遺伝子修飾を調べ、がん患者さんのその時の病態を把握する解析法を報告することができました。今後も、日々の臨床の中で蓄積されるデータと、臨床サンプルを使った基礎的研究データの融合によるトランスレーショナルリサーチ（TR：橋渡し研究）に取り組んでまいります。これまでの経験を活かしながら、浜松から新規知見を発信し、浜松医科大学の発展に寄与したいと思っております。

本講座の特徴の一つに、これまで歴代教授、医局員が育んできた自由で闊達な雰囲気があります。これからも若手医師に新しい挑戦ができる環境を整えていきたいと思っております。臨床では、幅広く地域、他科と連携し、研究では横断的研究に積極的に参加していきたいと思っております。

皆様におかれましては、耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座にこれまでと同様多くのご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶 ～医科歯科連携における架け橋として～

歯科口腔外科学講座 教授 増本 一真



本年4月1日付で歯科口腔外科学講座・第4代教授を拝命いたしました増本一真と申します。

神奈川県は湘南の地で育ちました私は1994年に新潟大学歯学部を卒業し、慣れない豪雪の地より逃れるように気候温暖な浜松に参りました。本学歯科口腔外科で臨床研修を終了後、本学大学院に進み、光医学、特に光線力学的療法の研究で学位を取得いたしました。その後、当科、自治医科大学集中治療部、浜松医療センター歯科口腔外科、防衛医科大学校歯科口腔外科で臨床研鑽を積み、2007年に本学に復職し現在に至っております。本学では歯科口腔外科全般、主に口腔がん、顎変形症を専門として治療に当たっております。

歯科口腔外科学講座は、初代 茂木教授、第2代 橋本教授、第3代 加藤教授と歴代教授は所謂ダブルライセンス、医師・歯科医師免許取得の先生方でありましたので、今回私が初の歯科医師免許単独取得教授となりました。このため、医科と歯科の境界領域とも言える歯科口腔外科において、当科は遊離皮弁再建術等の医科寄りの診療も範疇としておりましたが、今後は歯科ならではの治療、インプラントや顎骨増生に注力する所存です。

さて、超高齢化社会の到来に伴い歯科医師の重要な職務の一つとして、近年、医科歯科連携の重要性が特に叫ばれるようになりました。具体的には、周術期口腔機能管理料が2012年の診療報酬改定で新設され、当科でも同年より周術期口腔ケアを開始しております。この周術期口腔ケアは、歯科、歯科口腔外科を有さない病院においては、主治医である医師と開業歯科医師の間での直接的な連携が求められます。スムーズな連携には、医師・歯科医師間で患者さんの病態・治療方針に対する共通認識が不可欠ですが、医学歯学教育が医

歯二元論に基づいてい
る本邦では、両者間の
“共通言語”となる用
語の共有すら不十分であり、医科歯科連携実施上の障害となっていますことは論を待ちません。さらに、周術期口腔ケアに加え、medication-related osteonecrosis of the jaw（薬剤関連性顎骨壊死：MRONJ）も医科歯科連携において重要です。以前はビスホスホネート製剤やデノスマブが原因薬剤とされていましたが、最近では血管新生阻害薬（ベバシズマブ等）においても発生することが判明しています。現在開発著しい新規分子標的治療薬においても、MRONJ発生のリスクは否定できないため留意が必要ですが、ここでも残念ながら医師・歯科医師間の認識の乖離に起因した軋轢が時に散見されます。医科歯科連携の良否は患者さんの治療経過、予後に多大な影響を及ぼします。現在求められている医師・歯科医師間の共通認識、用語の共有の確立は急務であり、それは静岡県下唯一の医学部歯科口腔外科学講座である私どもの責務であると考えております。具体的には、より歯科疾患・治療に重きを置いた医学生への講義、臨床実習の変革や、地域歯科医師会での医科歯科連携関連疾患・治療の啓発推進が挙げられるでしょう。

人生の半分以上となる28年目に入り、第2の故郷とも言うべき本学で今後も皆さんと一緒に仕事をさせていただけることに大変感謝しております。まだまだ至らぬ点が多々ございますが、本学の更なる発展のため全身全霊で当たらせていただく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

浜松医大の医薬品開発と臨床研究の取り組み

臨床薬理学講座 教授／臨床研究センター センター長 乾 直輝



本年4月1日より臨床研究センター長を拝命しました。私の担当する「臨床研究センター」と「臨床薬理内科」についてご紹介します。臨床研究センター、臨床薬理内科どちらも、臨床研究や医薬品開発（治験）を通じた個別化治療の推進を目指しています。この広報誌をご覧になっている患者さんやご家族、一般の方は、治験や臨床研究、また臨床薬理という言葉聞いたことがない、意味がよくわからないという方も多いと思います。今回は、これらの説明を含めて、現在行っている取り組みなどを紹介させていただきます。

臨床研究センター

臨床研究センターには、医師、看護師、薬剤師と、専門的立場からサポートを行うクリニカル・リサーチ・コーディネーター（CRC）が在籍しています。「治験」と「臨床研究」支援という2部門に分かれ活動を行っています。

治験支援部門

まず、治験の話から始めます。皆さんが体調を崩されて医療施設を受診されると、治療のため内服や点滴の「くすり」が投与されます。このような「くすり」はどうやって使えるようになるかご存知でしょうか。「くすり」が世の中に出てくるまでには、長い時間とたくさんの努力が必要で

す。まず化合物や植物、土壌中の菌など自然界に存在する物質の中から「くすりの候補」を探します。続いて、試験管の中での実験や動物実験によって、病気に効果がありそうと予測されるものが「くすりの候補」として選別されます。そしてこの「くすりの候補」が、本当に病気を治すか、人に使用しても安全であるかをチェックします。効果や安全性が認められると「医薬品」となります。この確認は国が行いますが、その時に使うデータを得るために、健康な人や患者さんの協力を得て行う作業が治験です。治験は、国が「このくすりは効果がある、安全である」とお墨付きを与える工程ですから、その判断は厳格に行われます。正しく判断するには、科学的に正しいデータが必要となるので、治験では一般の診療よりも細かい技術や高い能力が求められます。実際、治験は「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」という規則に定められた基準を満たす病院だけで行われます。この基準には、①医療設備が十分に整っていること、②責任を持って治験を実施する医師、看護師、薬剤師等がそろっていること、③治験の内容を審査する委員会を利用できること、④緊急の場合には直ちに必要な治療、処置が行えることがあります。本院はこ

6ページへ続く

これらの基準を全て満たし、2019年～2020年度の実績で19～30例の新規、69～71例の継続治験を実施中です。対象疾患は、肺線維症、炎症性腸疾患、泌尿器がんなど様々で、多くの診療科が関わっています。もし「治験」に参加する機会があったら、是非前向きにご検討いただければと思います。参加される方にとってもメリットがあるかもしれないし、同じ病気の患者さんや将来の患者さんにとって価値のある新しいくすりをつくるという社会貢献の側面も持ちます。

臨床研究支援部門

一般の方には、治験よりこの臨床研究のほうが聞き慣れないかもしれません。治験を通じて新しいくすりが医療現場で使用できるようになりますが、残念ながら、新しいくすりが全てを解決してくれるわけではありません。くすりを使って治療を行う過程で、幾つもの問題点や疑問点が生じます。また、手術や放射線治療を行う場合や検査を行う過程でも問題や疑問に気づきます。このような問題点や疑問点は、医学を進歩させるための大きな原動力であり、解決するために私たち医療者は工夫を重ねるわけですが、そのために活用できる確かな情報を得るために行われるのが臨床研究です。治験の多くは、くすりを製造販売する企業が主体となって行われますが、臨床研究は医師、薬剤師、看護師など医療現場で診療に従事している者が主体となります。研究が円滑に、また科学的、倫理的に実施できるように、これらの研究者

をサポートすることが臨床研究支援部門の活動になります。現在、高いレベルが必要な特定臨床研究のプロジェクトマネジメント28課題を始め、たくさんの方の研究をサポートしています。

臨床薬理内科

臨床薬理内科は、現在、本学の理事・副学長である渡邊裕司先生が医学部臨床薬理学講座の教授に就任されていた2006年10月に、内科部門の1つとして設置された診療科です。消化器や腎臓といった臓器に一致した名前ではありませんし、放射線治療科やリハビリテーション科のように診療内容を反映した名称ではないので、臨床薬理内科という診療科のイメージが湧かない場合も多いと思います。実際のところ日本では数少ない診療科ですが、臨床薬理学の歴史の古い欧米では、内科学の一診療科としての位置付けが定着しています。臨床薬理内科では、患者さん一人ひとりの背景や合併症を考慮して副作用を回避しつつ、くすりの効果が最大限の発揮されるような治療（これを個別化治療と言います）を目指したいと考えています。ポイントは、ゲノム薬理学を踏まえたくすりの体内での動きとバイオマーカー情報を活用した薬物治療です。現在は肺高血圧症患者さんが診療の中心ですが、くすりに関するセカンドオピニオン外来や妊娠と薬の外来なども充実させていきたいと考えています。

浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内

診療科長（教授）の先生を中心に、当院の特長とも言える診療内容を紹介しております。各医療機関の皆さまのご参加をお待ちしております。

開催日	開催日時	テーマ	講師	申込締切
第4回	4月26日(月) 19時30分 ～ 20時30分	腫瘍センターの紹介と がん診療における 放射線治療の役割	放射線治療科 教授 中村 和正	4月19日(月) (先着100名)
第5回	5月24日(月) 19時30分 ～ 20時30分	最新の消化器内科診療について ～消化器内視鏡検査・治療と IBD診療を中心に～	内科学第一講座 教授 杉本 健	5月17日(月) (先着100名)
第6回	6月28日(月) 19時30分 ～ 20時30分	浜松医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の 最近の診療・研究	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 教授 三澤 清	6月21日(月) (先着100名)

対象者 医療従事者

開催方法 Zoomにてオンラインライブ配信

定員 100名（先着順）※事前申し込みが必要です。

参加費 無料（視聴に係る通信費は参加者負担となります。）

備考 申込締切日を過ぎた場合は、お問い合わせ先までご連絡ください。



事前申し込み方法：メール、申し込みフォーム又はFAXにてお申し込みください。

[メールの場合]

件名に「第〇回 浜松医科大学 地域連携Webセミナー申し込み」とご記入の上、

①氏名、②職種、③所属医療機関名、所属部署名 ④連絡先（E-mailと電話番号）を本文にご記入いただき、地域連携Webセミナー事務局宛に送信してください。

[申し込みフォーム、FAXの場合]

詳細は当院ホームページ（地域連携Webセミナー）をご確認ください。

お申し込み・お問い合わせ

地域連携Webセミナー担当事務局（地域連携室内）

電話：053-435-2637 FAX：053-435-2849（平日8：30～18：00）

E-mail：tiren-seminar@hama-med.ac.jp

腫瘍センター だより

地域がん診療連携拠点病院(高度型)の指定と 腫瘍センターのご紹介

令和2年4月に、腫瘍センター長を拝命し、約一年が経過いたしました。この一年間は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対外的にはあまり積極的な活動はできませんでしたが、本院腫瘍センターの活動についてご紹介させていただきます。

さて、本院は、本年4月に「地域がん診療連携拠点病院(高度型)」に指定されました。高度型とは、地域がん診療連携拠点病院の指定要件の必須要件に加えて、望ましいとされる要件を複数満たすことが求められます。がん診療に関する診療実績が特に優れていること、高度な放射線治療の実施が可能であること、相談支援センターへの医療従事者の配置や緩和ケアセンターの整備が行われていること、医療安全に関する取り組みが積極的に行われていることなどの条件を満たし、診療機能が高いと判断された場合に厚生労働省から指定されます。今回の指定は、各診療科、各部門のスタッフの皆様の、悪性腫瘍に対する検査・診断・治療・ケア、そして医療安全への取り組み等が、高度型にふさわしいと認められたものですが、がん診療連携拠点病院においては、腫瘍センターの役割も非常に重要なものとなります。

この度、その役割を明確にするために、腫瘍センターの組織の再編成が行われました。現在、腫瘍センターは、化学療法部、放射線治療部門、緩和ケアセンター、がんゲノム部門、地域連携部門(がん相談支援センター)、がん登録部門によって構成されています。緩和ケアを扱う部署は正式にセンターとなり、包括的な緩和ケアの診療にあたっており、相談件数は毎年増加傾向にあります。また、今年度からがん相談支援センターに新しいメディカルソーシャルワーカー(MSW)が着任し、がん患者さんの様々な相談にさらにきめ

腫瘍センター長 中村 和正



細かく対応できるようになりました。放射線治療部門や病棟には、放射線治療について学んだ常勤の看護師が配置され、患者さんに寄り添った専門的なケアを行っています。

現在、本院には医療機能強化棟(仮称)が建設中です。がん診療関係では、放射線治療部門、手術部門、外来診療部門や化学療法部、光学医療診療部門が拡充ないしは移転する予定です。特に化学療法部は、外来化学療法件数が増加傾向にあり、かなり手狭になっているため、移転による化学療法部の拡充に大きな期待が寄せられています。

私の専門は放射線治療ですが、放射線治療部門では、外部照射装置、小線源治療装置、治療計画CT、治療計画室が医療機能強化棟(仮称)に集約され、より効率的な運用が可能となります。また、最新の外部照射装置が導入される予定で、より良い放射線治療を提供できるよう、努力してまいります。

今まで行ってきた様々な研修会、講習会に加えて、院内の医療従事者を対象とした講習会・勉強会を本年1月から開始しました。がん診療連携拠点病院として、スタッフのさらなるレベルアップにつながるものと期待しています。現時点では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、市民公開講座などは十分実施できておりませんが、大学病院として高い医療技術を提供するとともに、地域の皆様が安心して治療を受けていただくことができるよう、スタッフ一同、力をあわせてまいります。皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



令和3年4月、看護部新規採用者78名を迎えました

教育担当看護師長 山本 明美

令和3年4月、看護部新規採用者78名を迎え、約2週間の新規採用者研修を修了し、各部署に配属しました。

今年度、新規採用者研修の一つとして新たに「看護部理念に基づく看護実践」研修を実施しました。この研修では、看護部理念である「Heart 誠実と温かい心で向きあう、Art 自律した看護専門職として寄り添う、Life 尊い命とその人らしさ

を支える」を具体的に自分の行動に置き換えて考えます。その中で、新規採用者同士、活発な意見交換が行われました。

今年度の看護部の目標は「Patient First」です。患者さんの思いを第一に考えて、看護が提供できるようにがんばります。よろしくお願いいたします。



看護部 新規職員が着任しました(図書館前の古墳ひろばにて)



お知らせ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と患者さんへの感染予防のため、現在下記の対応をしておりますのでご協力くださいますようお願いいたします。



1.来院される方へのお願い

来院される方は、可能な限りマスクの着用と、来院前に体温を測ってご自身の体調の確認をお願いします。発熱症状や風邪の症状がある場合や体調に不安がある場合は、ご来院をお控えいただくか、かかりつけの診療科へお電話等でご相談ください。また、付き添いは原則1名とさせていただきます。やむを得ず複数名になる場合は総合受付にご相談ください。

2.入院患者さんの外出及び外泊の禁止

当院に入院されている患者さんの外出及び外泊を原則禁止とさせていただきます。どうしてもやむを得ない事情により外出及び外泊を希望される場合は主治医とご相談ください。

3.面会の禁止

入院患者さんへの面会を原則禁止します。ただし、病状説明や手術当日、病院からの呼び出しを受けた時、入院生活に必要な物品を届ける時、その他どうしても付き添いが必要と判断される場合などは、必要最低限人数かつ面会者の体調確認の上、面会を許可します。

なにとぞご理解・ご協力のほどよろしく申し上げます。

駐車場整理料の変更について(お知らせ)

日頃から駐車場の管理運営にご協力をいただきありがとうございます。

この度、駐車場整理料を下記の通り変更することとなりましたので、お知らせいたします。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

● 駐車場整理料が変更になります。

令和2年8月1日(土)から

外来患者の方・付添いの方の駐車場整理料を、以下に変更いたします。

【現行料金】

外来患者の方 付添いの方	最初の 30分まで 無料	1回 / 100円 (駐車後24時間)
お見舞いの方 一般利用の方		60分 / 200円 最大料金 駐車後24時間 600円

【新料金】

外来患者の方 付添いの方	最初の 30分まで 無料	1回 / 200円 (駐車後24時間)
お見舞いの方 一般利用の方		60分 / 200円 最大料金 駐車後24時間 600円

※外来患者の方・付添いの方は、駐車場整理料の減額処理が必要となります。

駐車券を必ず院内にお持ちください。

<駐車場運営管理・本件に関する問合せ先> タイムズコンタクトセンターTEL 0120-77-8924 (24時間/年中無休)

外来診療日一覧

2021.5.1現在

受付時間 午前 8時30分～11時 一般外来・専門外来
午後 0時30分～2時 専門外来

○：午前
◆：予約のみ

休診日 土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
内科 受付電話 435-2632											
一般内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
腎臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午後のみ
脳神経内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	水曜日：午前のみ
内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
肝臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
循環器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火曜日：午後のみ
血液内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午前のみ
免疫・リウマチ内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆			◆	◆	要問い合わせ
感染症専門外来			◆					◆			午後のみ
禁煙外来	◆					◆					
ペースメーカー外来											予約のみ 要問い合わせ
ピロリ菌外来	◆										午後のみ
合併症外来								◆			
精神科神経科 受付電話 435-2635 ※平成28年5月から、初診完全予約制を実施しています。											
専門外来		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	
成人発達障害外来			◆					◆			
摂食障害専門外来								◆			
デイケア						◆			◆	◆	※2020.4.28～休診
小児科 受付電話 435-2638											
専門外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
内分泌・遺伝		◆					◆				
内分泌		◆					◆				
心臓				◆	◆				◆	◆	
血液				※	※				◆	◆	※初診は随時電話で
免疫・アレルギー	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
神経	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
腎臓	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
新生児フォローアップ						◆	◆			◆	
乳児検診	◆					◆					
CCS外来									◆		第4週のみ
小児外科 受付電話 435-2638											
初診・再診		◆		◆		◆	◆		◆		
外科 受付電話 435-2641・2642											
心臓血管外科	○		○		◆	○		○		◆	木曜日：午前のみ(下肢静脈瘤)
血管外科		◆		◆			◆				
呼吸器外科			◆				◆			◆	
乳腺外科	◆	◆	◆		◆	◆	◆			◆	水曜日：家族性乳腺腫瘍外来(午後)
上部消化管外科		◆	◆					◆	◆		
下部消化管外科	◆					◆			◆	◆	木曜日：午前のみ
肝・胆・膵外科				◆	◆				◆	◆	
一般外科	○		○		○	○		○		○	
肥満減量外来					◆					◆	
緩和ケア外来		◆			◆		◆			◆	
脳神経外科 受付電話 435-2644											
初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆	
整形外科 受付電話 435-2647											
専門外来	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
教授外来(脊椎)	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
骨粗鬆症				◆	◆				◆	◆	
リウマチ			◆	◆				◆	◆		
手・末梢神経			◆					◆			
脊椎	◆					◆					
腫瘍			◆					◆			
股関節					◆					◆	
肩関節					◆					◆	
膝関節・スポーツ					◆					◆	
小児整形	◆					◆					
ヘルニア							◆				

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
皮膚科 受付電話 435-2650											
専門外来	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	アトピー外来			◆				◆			
	脱毛症外来	◆		◆			◆		◆		
	乾癬外来		◆					◆			
	皮膚リンフォーマ外来				◆					◆	
泌尿器科 受付電話 435-2653											
専門外来	初診・再診	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆		
	腎移植外来				◆				◆		医師交代制
	排尿障害外来		◆				◆				
	不妊症外来		◆				◆			◆	第1、3、4、5週のみ
	腫瘍外来		◆	◆	◆		◆	◆	◆		
眼科 受付電話 435-2656											
専門外来	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火・金曜日：午前のみ
	網膜変性外来		◆				◆				
	斜視・弱視外来							◆			
	ロービジョン									◆	
	角膜外来									◆	第2週のみ（月により変更あり）
耳鼻咽喉科 受付電話 435-2659											
専門外来	初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆	
	腫瘍外来	◆			◆	◆					
	耳外来				◆					◆	
	耳鳴外来		◆				◆				
	難聴外来・人工内耳外来		◆				◆				
	睡眠時無呼吸・いびき外来					◆					◆
	顔面神経外来		◆		◆		◆		◆		
	鼻副鼻腔・アレルギー				◆					◆	
産科婦人科 受付電話 435-2662 ※女性医師ご希望の方はお申し出ください。											
専門外来	産科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	婦人科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	婦人科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	産科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	腹腔鏡外来				◆					◆	
	母親学級										要問い合わせ（産科婦人科）
	漢方外来				◆					◆	第1、2、4週のみ
ART室 受付電話 435-2664											
	不妊外来						◆	◆		◆	◆
放射線科 受付電話 435-2665											
	放射線治療科 放射線治療外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	放射線診断科 IVR外来		◆				◆				
麻酔科蘇生科 受付電話 435-2668											
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
リハビリテーション科 受付電話 435-2747											
専門外来	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	要問い合わせ 午前のみ
	義肢・装具外来			◆					◆		午後のみ
	嚥下外来	◆		◆			◆		◆		
	痙縮外来		◆		◆		◆		◆		
	高次脳外来	◆			◆		◆		◆		
形成外科 受付電話 435-2496											
	初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
歯科口腔外科 受付電話 435-2673											
専門外来	初診・再診	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	
	唇顎口蓋裂外来			◆					◆		専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付電話にお問い合わせください
	顎補綴			◆					◆		
	矯正歯科					◆				◆	

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。